

2024年1月18日作成 Ver.1.2

情報公開文書

大動脈基部拡大と大動脈弁弁尖の延長との関連

研究の概要

【背景】

大動脈弁逆流（AR）は、大動脈弁基部の拡張によって引き起こされるもので、弁輪径、バルサルバ洞径、ST junction 径に応じて3つのタイプに分類されます。その治療法である大動脈弁形成術には、大動脈弁に適した心臓 CT のような画像診断法や、術前の詳細な定量評価が望まれます。特に弁尖の長さ（geometric height:GH）は、手術適応を決定する上で重要な指標です。これらを術前に正確に定量し、それらの情報をもって形成術に臨むことは、弁形成の質の向上につながると考えられます。

【目的】

本研究では、AR 症例と正常例において、CT による大動脈基部形態と GH 値の関連を検討することを目的としています。

【意義】

CT による大動脈弁の画像診断の有用性を示すことができれば、積極的な CT による術前評価で手術の難易度を想定することができ、大動脈弁形成の普及にもつながると考えられます。大動脈拡張のタイプに応じた独特の大動脈弁尖の延長を理解することができます。

【方法】

対象となる患者さんの心臓 CT 画像を用いて GH、弁輪径、バルサルバ洞径、STJ 径計測を行い、既存の報告との整合性を確認します。その他、GH に関係する指標を検討したり、各症例の大動脈基部の状態を比較したりします。画像の解析は心臓 CT の三次元データから CT 解析ソフト（Siemens 社製、Syngo.via）を用いて適切な計測断面を抽出して行います。

対象となる患者さん

当院で 2017 年 1 月 1 日より 2023 年 12 月 31 日までに通常診療で術前に心臓 CT が施行された大動脈三尖弁逆流に対して外科的治療（弁形成または弁置換）を行った症例と狭心症の通常診療で冠動脈 CT を施行された大動脈及び基部の異常を認めない症例を正常例として対象とします。

研究に用いる情報	
<p>本研究では通常臨床診療として行われた冠動脈 CT 画像データを用います。また、診療録より患者背景として手術施行時の年齢、性別、身長、体重の情報、手術前の経胸壁心エコー図の情報を収集します。</p>	
情報の利用開始予定日	
<p>本研究は 2024 年 1 月 23 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。</p>	
<p>あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。</p> <p>ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。</p> <p>あらかじめご了承ください。</p>	
研究実施期間	
<p>研究機関長の許可日～2025 年 12 月 31 日</p>	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 循環器内科 氏名：前村浩二 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7288
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
<p>【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】 長崎大学病院 循環器内科 前村浩二 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095 (819) 7288 FAX 095 (819) 7290</p>	
<p>【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療相談室 095 (819) 7200 受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）</p>	